

新しい学力観に立った学習指導における支援の在り方

—— 自ら学びとる過程を重視した支援の工夫 ——

足利市立西小学校

1 はじめに

本校は、平成8・9年度栃木県教育委員会指定の実験学校、平成8・9・10年度足利市教育委員会指定の研究学校として研究を進めてきた。すでに、研究発表は平成9年度に行われ、研究紀要も出されているので、本稿では、研究発表後継続して行った実践記録を中心に研究の内容と成果及び課題を述べたい。

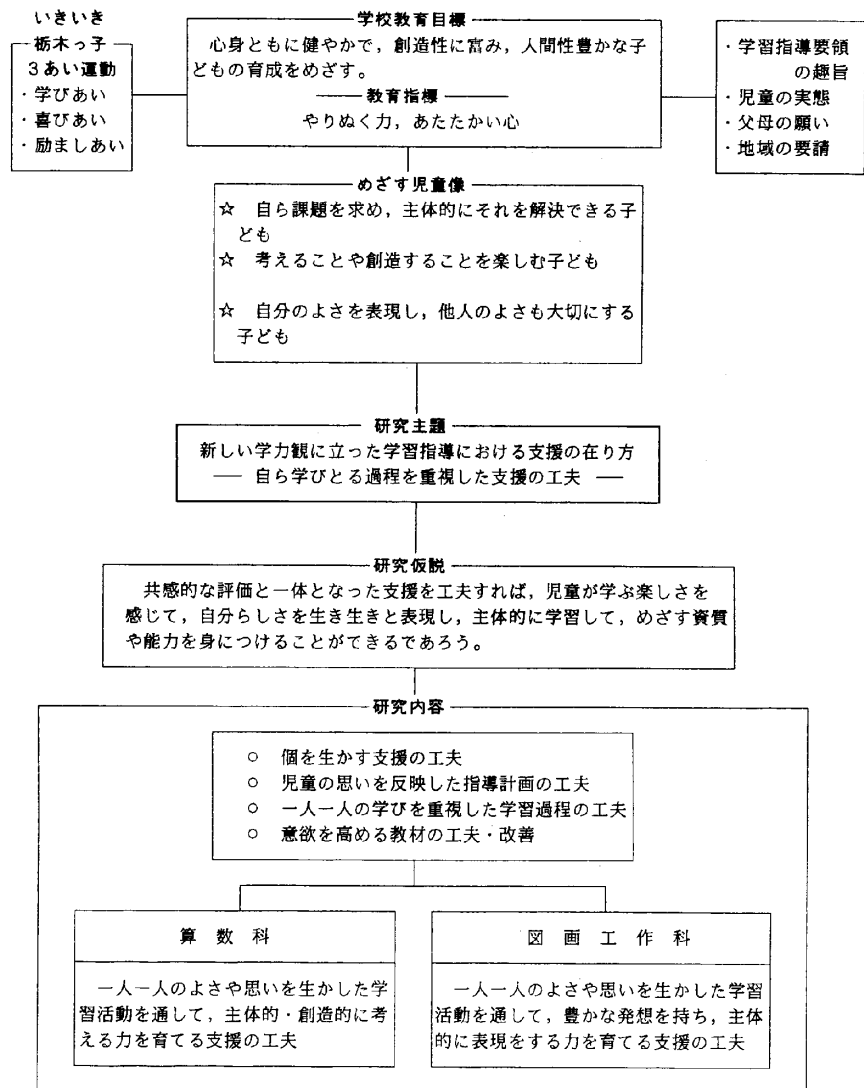
2 研究の概要

本校では、「共感的な評価と一体となった支援を工夫すれば、児童が学ぶ楽しさを感じて自分らしさを生き生きと表現し、主体的に学習して、めざす資質や能力を身につけることができるであろう。」という仮説のもと、次の4つを研究の柱とし、算数科、図画工作科を研究教科として行ってきた。

- 個を生かす支援の工夫
- 児童の思いを反映した指導計画の工夫
- 一人一人の学びを重視した学習過程の工夫
- 意欲を高める教材の工夫・改善

研究発表を行った前年度の段階で、「さらに多くの単元や題材で実践を深めるとともに、他教科へも範囲を広げる」こと、「これまでの蓄積を生かした、年間計画の一層の改善・充実に努める」こと、「より個に対応するための指導計画や展開の複線化について研究を深める」ことが課題として挙げられた。

これを受け、今年度は、研究教科はそのまま、個別化、複線化をめざした実践を行うことをねらいとして、授業研究を続けてきた。

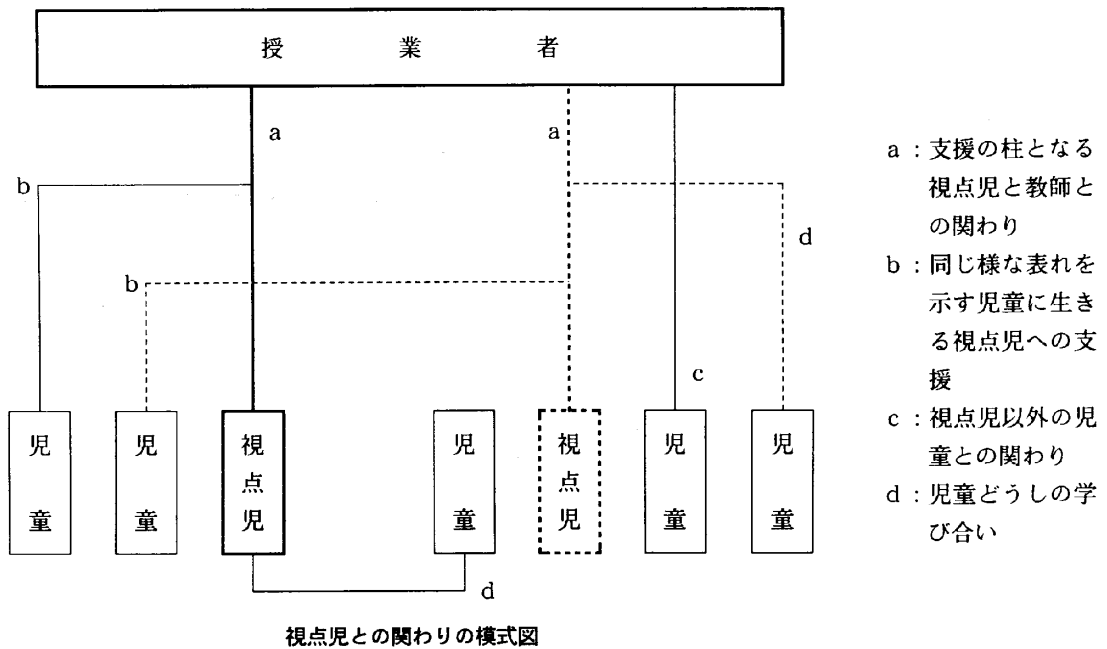


3 視点児について

本校では、視点児を設定して授業研究を行ってきた。以下に、その構想を述べる。

(1) 基本的な考え方

- ・ 個に応じた支援を行うための視点とする。(視点児のために考え、行った支援の効果を評価する。そのために、授業は視点児への支援を重点に進める。)
- ・ 単元(題材)を通して、できる限り多くの児童、理想的には全員を視点児として取り上げる。
- ・ 人数は、制限を設けない(可能な範囲で)。



(2) 視点児の選び方

視点児の選び方は、教科や単元・題材、学年・学級でも異なると考えられるので、授業者の意図により、以下に示す例などをもとに行った。

例1 これまで本校で行っていた方法

本時における児童の表れを、これまでの蓄積から想定して、生かしたい児童、支援したい児童を視点児として選ぶ。考え方や技能などの観点でとらえやすい方法と考えられるが、能力別になりやすいという問題点がある。

例2 宇都宮大学附属小学校の方法(研究紀要31号 1998年)

「児童の要求と教師の見取りのギャップ」から、傾向を4つに分類し、それに該当する視点児を選ぶ。意欲の面を中心として全般的にとらえやすい方法と考えられるが、パターン化してしまうおそれがあるという問題点も考えられる。

- A 教師は見守りたいと考え、児童も支援を求めている。
- B 教師は見守りたいと考えているが、児童は支援を求めている。
- C 教師が積極的に支援をしたいと考え、児童も支援を求めている。
- D 教師は積極的に支援をしたいと考えているが、児童は支援を求めている。

4 実践記録

(1) 算数科

ア 単元名 「三角形はかせになろう（三角形）」（3年）

イ 研究主題との関連

- 個が生きる支援の工夫

〈導入〉

児童一人一人が本時の学習課題を自分のものとして感じ、学習に取り組めるように、児童の興味を引くような学習課題を提示し、意欲付けを図った。

〈操作活動〉

色紙で作った二等辺三角形と正三角形を用いて2つの三角形の関係を調べたり、角の大きさ比べでは実際に角を紙に写し取って比べたりするなどの具体的な操作活動を多く取り入れ、それぞれの活動が十分に行えるように時間を確保した。操作活動では、児童が試行錯誤できるように作業用紙や色紙を十分準備した。

〈学び合い〉

いろいろな操作活動のなかで、2人組やグループで行う場を設定し、自然な形での学び合いができるようにした。

- 一人一人の学びを重視した学習過程の工夫

〈「つかむ」学習〉

いろいろな三角形の仲間分けをする活動を設定し、その活動を通して三角形にはいくつかの仲間があることを一人一人に気付かせることを図った。

〈「ためす・しらべる」学習〉

「三角形のひみつを探そう」のところでは、二等辺三角形と正三角形から自分が調べたい三角形を選び、自分が選んだ三角形の仲間についてあてはまる特徴となる「ひみつ探し」を行うという複線化を取り入れた。こうすることによって、児童一人一人の調べたいという意欲が活かされてくると考えた。

| 学習過程 | 時数 | 学 習 活 動 | 支 援 の 手 だ て | 評価の観点 | | | 評 価 項 目 |
|------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|-----|-------------------------------------------------------------------|
| | | | | 関 | 数 | 表 知 | |
| つかむ | 1 | 三角形のひみつを見つけよう。 ・いろいろな三角形を、自分で気づいた観点から分類する。 | ・児童の気づきを大切に、次時への学習の広がりやきっかけとしたい。 ・長さに着目する手だてとして、数種類の長さに切りそろえたストローを用意する。 | ◎ | ○ | ○ | ◎自分で観点を発見して、三角形を分類しようとしている。 ○長さや角に着目して、三角形を分けようとしている。 |
| | 2 | たんけんの前に、これだけは知っておこう。 ・三角定規のかどを調べることを通して、角の概念と用語「角、頂点、辺」を知る。 ・コンパスの使い方を調べる。 | ・基礎知識として、角の概念、用語を理解させたい。そのために、指示による学習環境を充実する。 ・実感として、概念や言葉をつかませるために、三角定規やコンパスを操作を取り入れる。 | ○ | ◎ | ○ | ◎角の概念、用語を理解する。コンパスの使い方が分かる。 |
| しらべる | 3 | 二等辺三角形のひみつをさぐる。 正三角形のひみつをさぐる。 | ・さまざまな大きさの二等辺三角形や正三角形から、結果を導き出させたい。そのために、できるだけ多くの二等辺三角形と正三角形を用意する。 ・予想が考えられた場合は、自分の予想が当たっているかどうか、調べることを通して確認するように助言する。 ・予想が立てられなかった場合は、調べることから何が分かるか助言する。 | ◎ | ○ | ○ | ◎自分で予想し、またはそれを修正しながら、結果を求めている。 ○進んで、いろいろな大きさの三角形について調べようとしている。 |
| | 4 | ・辺の長さに注目して、二等辺三角形の特徴を調べる。 ・角に着目して、二等辺三角形の特徴を調べる。 ・辺の長さに注目して、正三角形の特徴を調べる。 ・角に着目して、正三角形の特徴を調べる。 | ・自分とは違うテーマで調べたグループの発表をメモするためのワークシートを用意する。 | ◎ | ○ | ○ | ◎意欲的に発表し、他の発表も進んで聞いている。 ○ワークシートを仕上げることができる。 |
| た | 6 | 二等辺三角形と正三角形、どうやって書くの？ ・「ひみつ探し」をしよう。二等辺三角形、正三角形の書き方 | ・必要によって、コンパスを使うと便利なことを示唆する。 ・自分なりの方法で工夫をしている児童を賞揚する。 | ◎ | ○ | ○ | ◎コンパスを使い、二等辺三角形、正三角形を書くことができる。 ○いろいろな大きさの三角形を書くことができる。 |

単元の指導計画

ウ 視点児の選出の方法

本時では、いろいろな三角形を辺や角などの観点で仲間分けをするという活動を通して、三角形にはいくつかの仲間があることを学習する。この活動は、自分で弁別する観点を考え、実際にやってみるという自力解決学習である。

今までの本学級の児童の学習活動の様子をもとにすると、本時の自力解決学習の取り組み方について、次のような児童の表れが考えられた。

- ① 自分の考えを説明できる児童。
 - ② 友達の意見を聞いたりやり方を見たりしておよその見通しを持ち、試行錯誤をしながら自力で解決しようとする児童。
 - ③ 提示された具体物を操作することで解決の見通しを持ち、自力解決を試みることができる児童。
- 本時は、①、②、③から1名ずつ視点児を選出し、以下のように実態をとらえ、支援を行おうと考えた。

| | P 1 | P 2 | P 3 |
|-------|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 実 態 | 学習課題に積極的に取り組み、見通しを持って自力解決ができる。 | 友達の意見を聞いたり、やり方を見たりすることから見通しを持ち、自力での解決に取り組める。 | 具体的な事例に取り組むことで、自力解決を試みることができる。 |
| 支援の方向 | 自分の考えを友達に紹介できるように考えをまとめるよう勧めたり、発表を促したりする。 | 個人の活動を励ます。自力解決が難行している場合は、友達の活動を見たり、三角形の辺の長さやかどの大きさに注目したりするように助言する。 | 解決の糸口とするために、具体物を提示する。 |

エ 実践の結果

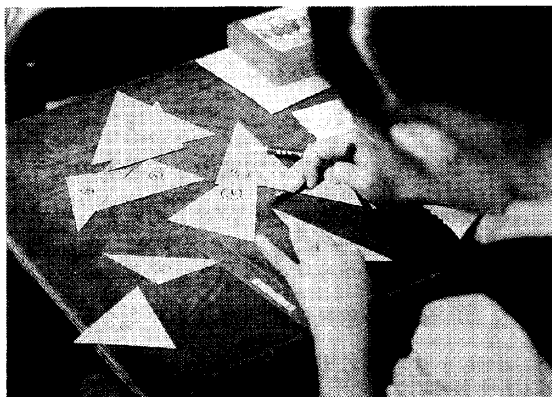
(ア) 授業実践から

- ・ 辺の長さを計る、角を比べるなど具体的な操作はしていたが、仲間分けがよくできていなかったの
で、もう少しかみ砕いた課題とした方が適切だと思った。
- ・ 定規だけでなく、コンパスを使って三角形がかけることに興味を感じた児童が多かった。
- ・ 自分で書いた三角形を切って、調べることで意欲が高まっていた。
- ・ 自分の調べたい三角形を調べることで、意欲的な取り組みが見られた。
- ・ 互いの調べたことをきいて、二等辺三角形と三角形の両方が分かってよかったという感想をもって
いた。
- ・ 算数新聞には、自分の知ったこと、できるようになったことを進んで自分なりに書いていた。

(イ) 視点児とのかかわりから

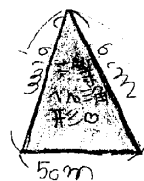
- ・ それぞれに操作活動用の三角形を持たせたことによって、効果的に学習が進んだ。(P3)

- ・ すぐにできていたが、机間指導で辺の長さを計るように助言されたことによって、正三角形については、大きさにとらわれずに分けていた。(P1)
 - ・ 友だちのやっていることの紹介を教師から聞いて、やや滞っていた作業が進んだ。(P2)
 - ・ 教師が用意した、ストローの補助教具を使って調べていた。用意した支援が生きていた。(P3)
- (7) 単元終了後の視点児の感想から

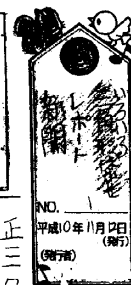


操作活動

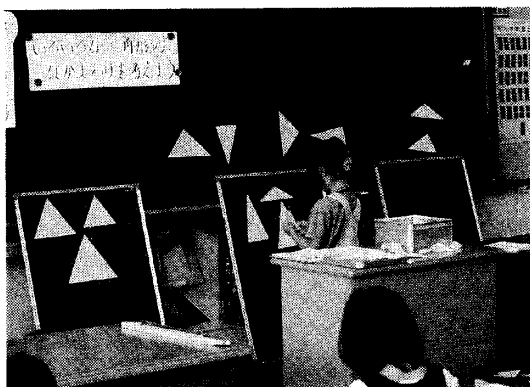
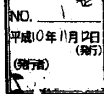
- ・ 紙で三角形を作って、くらべているのが楽しい。角の大きさがそれぞれちがうからおもしろい。コンパスもつかわなければ、じょうずな三角形ができない。(P1)
- ・ わたしは算数の勉強がきらいでした。でも、三角形の勉強をやっているうちにだんだん楽しくなってきました。そして、わたしが一番おもしろかったのは、三角じょうぎをとなりどうしにして、三角形が書けることです。わたしは三角形はすきです。(P2)
- ・ 正三角形などが、なかなかかけなかったです。ほかにまだかけない三角形があります。(P3)



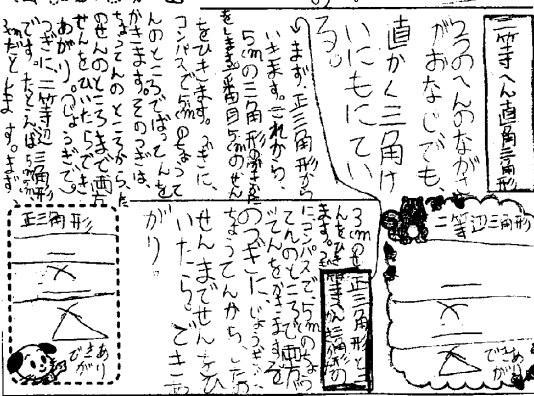
二等辺三角形
二等辺三角形は
二つの辺の
長さが同じで
もう一つの辺の
長さがちがいで
ます。



正三角形
正三角形は
三つの辺の
長さがおなじ
3つの角の
大きさは
3つとも
同じ。



仲間分けの発表



児童の書いた算数新聞

(2) 図画工作科

ア 題材名 「自分だけの木 —— 多色刷りに挑戦! ——」(5年)

イ 研究主題との関連

- 個が生きる支援の工夫

「共感する」という姿勢で子どもに接し、それぞれの子どものよさを見つけ励ますようにする。活動の過程の気付きや考えの深まりを大切に、一緒に考え、そして感じることをできるようにした。

- 指導計画の工夫

多色刷り木版という新しい技法に出会うので、導入の段階で幾つかの作品を鑑賞し、興味関心を持たせる。また、おおよその作り方を知るために、必要であればVTRの活用も考えておくようにした。

発想や構想の場面で時間をとり、自分の思いが十分にふくらむようにしたいが、なかなか思いのままにまらない場合には、その過程にとどまらず柔軟な対応をした。

彫り進んでいく段階や色をつけて刷っていく段階で、幾通りもイメージが表現できるように十分に用紙や用具を準備した。

○ 学習過程の工夫

「つかむ」「あらわす」「みつけあう」という段階を設けるが、「みつけあう」段階は「あらわす」段階でも随時設けていった。友達の良いところに気付き、互いに見合うことでイメージがより深まり豊かな発想を引き出してくれるものと考えた。

また、じっくり考える子、すぐに活動する子とさまざまな様子が見られたり、彫り進めていくうちにそれぞれの進度が生まれたりすることもあったので、学習過程を柔軟にして、その子なりのスタイルに対応するようにした。

○ 意欲を高める環境

彫りと刷りの場所を固定し、刷る色が選べるように、用具の数や場所を考慮する。そして、途中の作品を乾燥できるように、広げたり、つるしたりできるところをたくさん用意した。また、色を重ねた場合の刷り上がりの色については、児童の経験が十分でないので、自分の出したい色を出すためにはどの色を重ねたらよいのか参考とするために、「色の重なり」の見本を作成した。これにより、児童が意欲的にイメージを膨らまし、取り組んでいけると考えた。

ウ 視点児の選出の方法

本時は、彫り進めていくなかで、発想を広げ、彫り方や色合いを工夫していく活動であることから、つぎに示すような活動が予想された。

- ① 取り掛かりがはやく、意欲を持って活動する。
- ② じっくりと考えて、丁寧に表現していく。
- ③ 自分の思いを表現するのに何かきっかけがあると意欲をもって活動する。

本時は、この①、②、③から視点児を選び、次の表のように支援の方向を考えた。

| | P 1 | P 2 | P 3 |
|-------|-----------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------|
| 実 態 | 自分で彫り方や色を考えて制作することができる。 | 細かなことを気にして彫り方や色使いに迷いながらもこつこつ制作する。 | 下絵やイメージにとらわれすぎると活動が停滞気味になってしまう。 |
| 支援の方向 | いろいろな方法を提案し、作品を多方向からみて工夫できるようにする。 | 着実な活動を認め思いを聞く。時には思い切った方法も試すようにできるようにする。 | イメージにこだわらず思い切った活動を提案し、楽しく活動できるようにする。 |

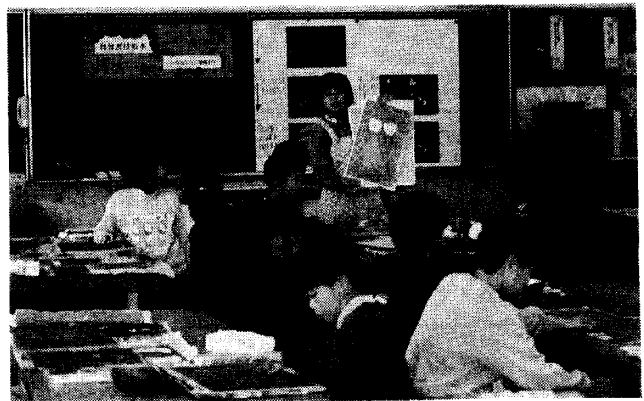
エ 実践の結果

児童の反応(本時)

| 教師の支援 | P1 | P2 | P3 |
|-----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| P2 N君の木、すてきな木なんだよね。 | | 自分がかいた木を見直している。 | |
| P1 P1児の作品を、色を変えることの例として紹介する。 | → 満足そうに見ている。 | | |
| P3 何を彫って、何を後で彫るの？ 雲もあるといいんじゃないのかな。 | | | 全部彫るのはたいへんだなあ。 「木と太陽を彫ろう。」 動物や神様は、貼ろう。促されて、雲を作り始める。 |
| P2 ここをもう少し彫るといいよ。 別の所に自分の好きな色を作ってみていいよ。 よくできたね。 | | 「ぼく丸刀でやってみる。」 「この色を使ってもいいですか。」 自分の色を作る。 「おお、きれいになってきた。」鼻歌交じり。 | |
| P3 この辺いい感じだね。 | | | 線ばり以外の部分に木の感じを出して彫る。 |
| P1 色を変えてみれば？黄色く残したい所は？どこを合わせればいいかな？ ずれてもおもしろいかもしれないよ。 | 合わせ方を考える。 「黄色に藍色を混ぜてみたい。」ピンク色の作品に塗る。 「目にくまがでさちやった。」2枚目の作品をもって考える色のかさなりの掲示を見る。「青にしよう。」色を作る。 | | |
| P3 左手を添えてやらないと危ないよ。 | | | 「指がいたい。」 |
| P1 ううん。いい重なりだね。 | ← 「色作りの天才だ。」 | | |
| P3 これは何？ | | | 「木の先のとげだよ」 |
| P2 青くしたい所を彫るんだよ。ここは？じゃあここは？ あまり長くしないで彫るんだよ。 | | 確かめて答える。 彫り進める。 でも長くした方がきれいに彫れるから…… | |
| P3 見守る。 | | | 1回目を自分で刷る。 |

P1は、自分で考えて作業を進めることができるので、色の重なり方について投げかけたところ、自分で色作りをし、工夫して活動していた。その後も、意欲をもって作品を仕上げることができた。

P2は、友だちの作品からいろいろな方法を見て、自分で考えながら活動をしていた。自分で納得し、いろいろな方法を試しながら作品を仕上げることができた。



P1の作品を紹介する。(色の重ね方の参考にする)

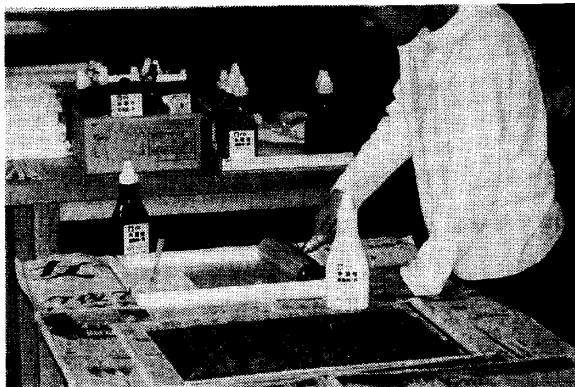
P3は、とても豊かな発想の下絵を描いていたが、それにとらわれすぎると作業が停滞してしまうので、部分的に彫りすすめるよう投げかけたところ、自分から進んで作業し、印刷も率先して行うことができた。

児童は、全体として意欲的に作品に取り組んでいた。

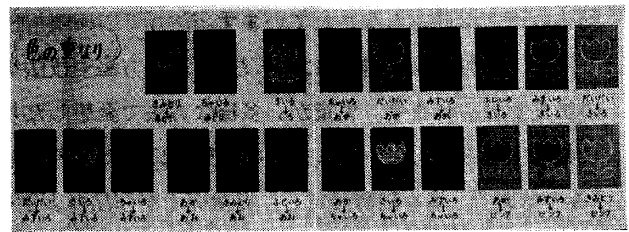
「色の重なり」の掲示物は、教師自身の教材研究を深められたうえ、単元を通して子どもたちの参考資料となり、よかった。



どんどん彫りすすめる。



自分が好きな色を作る。



「色の重なり」の掲示物
2色の重ね刷りの例を示した。
児童は必要な時に見に来て参考にした。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・ 共感的に児童とかかわることで、算数科では、自分なりに学んだことを言葉や図で表現したり、図画工作科では、自分にあった表現や技法で作品をつくったり、児童が自分らしさを表すことができるようになってきた。
- ・ 計画的に視点児を設定することにより、個に目が向くようになった。支援を具体的に考えることができるようになり、特に図画工作科では個別化が図れるようになった。
- ・ 視点児の選び方については、さまざまな意見があり、さまざまな方法で実践してみたが、宇大附属小の考え方は、児童のとらえ方が明確であるため、支援の方向が考えやすいという利点があるという成果が得られた。(パターン化しないようにする配慮が必要ではある。)

(2) 課題

- ・ 個別化、複線化については、指導者が一人という形態で研究を進めてきたが、これについては、今後も可能性を探っていくことが必要と考えられる。それと同時に、コンピュータなどの教育機器の使用や複数の指導者によるチーム・ティーチングという形で個別化、複線化を行う試みもこれからの課題として考えていきたい。
- ・ 算数科、図画工作科の2教科で研究を進めてきたが、これらの教科について継続して研究を深めるとともに、他教科へもこれまでの研究の蓄積をもとに広げていきたい。

評

西小学校では、児童が、学ぶ楽しさを感じて自分らしさを生き生きと表現し、主体的に学習しながら、めざす資質や能力を身に付けることができるように、共感的な評価と一体となった支援の在り方についての研究に取り組まれました。

本実践は、児童一人一人の学習の仕方の違いに対応するための柔軟な指導計画、多様な学習過程の組み立て方とともに、児童の学習意欲を高めるための教材の在り方についての示唆を与えています。以下、各教科別にその成果をまとめてみます。

算数科では「児童の好むストーリー」や「児童の身近な話題」など、児童の思いや願いをテーマとした学習課題を設定するとともに、学習展開の複雑化を図るなど、指導計画の工夫に努められています。また、児童一人一人の学び方を重視した学習方法や内容の選択の場が設定されています。その際、多様な教具や操作活動、調べ学習などを取り入れた学習が工夫され、児童それぞれの考えを認め、創造を助ける場が用意されています。さらに、学習の状況に応じて、児童一人一人への支援のための具体物や作業用紙が用意され、活動への適切な助言もなされています。

図画工作科では、「材料に親しむ」「表現方法や技法を試す」などの体験活動を取り入れた柔軟な指導計画の工夫が見られます。児童が、多様な方法で発想したり、様々な材料・技法で表現したりできる時間を十分に確保するとともに、一人一人の実態に応じた学習過程が展開されています。また、表現のよさを認め合う「みつけあう」場を随時設定し、児童同士が作品のよさを感じ取れるような工夫が見られます。さらに、児童が自由に活用できる材料コーナーを設置したり、作品見本を教師自らが作成掲示したりするなど、学習意欲を高める環境づくりの充実も図られています。

また、実践記録からは、教師の「共感する」支援が、児童の考えや表現を広げ、深めていることが読みとれます。特に、視点児とのかかわりの中に、支援が生きていることがうかがわれます。それは、視点児の考え方を深めつつ、児童の実態を多方面から把握しているために、その子への本時の支援の方向が、より明確になっているからであると考えます。

この研究は、支援の在り方を具体的に構想していく上で大いに参考になるものと考えます。今後も、共感的な支援と評価を一体化し、学習過程を通して意図的、計画的かつ効果的に支援が進められるよう、研究を更に深められますことを期待いたします。